令和 6 年度 西胆振保健医療福祉圏域連携推進会議・西胆振区域地域医療構想調整会議【議事録】

日　時　　令和 6 年（2024 年）12 月 3 日（火）　18 時 15 分～20 時 00 分

場　所　　北海道胆振総合振興局 3 階会議室Ａ

出席者　　別添「出席者名簿」のとおり

議　題　　１　北海道医療計画西胆振地域推進方針（案）について
　　２　室蘭市内 3 病院の統合・再編等について

議　事

（１）議題１　北海道医療計画西胆振地域推進方針（案）について

ア　事務局（企画総務課企画主幹）から資料に基づき説明

・資料 1　北海道医療計画西胆振地域推進方針（案）
・資料 1-1 西胆振保健医療福祉圏域連携推進会議（各専門部会）のご意見を踏まえた修正内容
・資料 2　北海道医療計画西胆振地域推進方針【概要】

イ　特記事項：無

ウ　質疑応答：有

前田委員）　54 ページの一番上の「課題」に「初期救急医療体制・二次救急医療体制」の文章で「初期救急医療の一部を二次救急医療機関が担っているため、二次救急医療機関への負担が増大している状況です。」とあるが、初期救急医療の「一部を」というのは、余りに事実とかけ離れた表現なので、これを「大半を」や「大部分を」と表現してくれないと問題がすごく小さく見えてしまう。53 ページの一番上に表があるが、室蘭の大きな問題で、初期医療救急を担う医療機関はほとんどない。室蘭市医師会でゴールデンウィーク、年末年始、インフルエンザ流行期に初期救急を対応することにはなっているが、99%、二次医療機関が対応し診ており、近隣の苫小牧など、夜間急病センターがあるところと状況が全然違う。室蘭においては､二次医療機関が全てと言っていいぐらい､初期救急医療の対応をしていて、この地域の特徴ではあるが、非常に二次医療機関の負担が大きく、今後どう解決していくかという大問題なので表現を変えて欲しいと思う。｢一部を｣というのは、少しのパートを担っているみたいだが、ほとんどを対応しているので、少なくとも表現は「大部分を」や「多数を」といった表現にしていただきたい。

久居委員）　胆振西部救急センターというのは、伊達赤十字病院のことだが、夜間救急は私も含めた胆振西部医師会の先生が対応している。それ以外の時間は、基本的には伊達赤十字病院の医師が、初期救急医療と二次救急医療を当直で対応しているという状況。

事務局）　実態に合わせて、文言修正をさせていただきたい。修正に当たっては、ご意見を伺いながら進めたいと思うので、よろしくお願いする。

村下会長）　7 ページ、病院の１日平均在院患者数の推移で、「同じく精神病院等においては 318.9 人で、全道の 230.5 人、全国の 163.8 少なくなっている」とあるが、「多くなっている」の間違いではないか。

事務局）　ご指摘のとおり、間違いであるので修正する。

大川原委員）　6 ページから患者受療動向、病院の平均在院日数、一般病床・療養病床に分けて分析されて、最後に病床数の推移があるが、10 ページにある病床数の分析をするときに、例えば人口 10 万などの人口比あたりの病床数データがないと、他のものが見えないと思う。急性期の病棟が余っているという話がよく聞かれるが、例えば人口に対してどのぐらいの病床が必要かという比較がないと、病床稼働率が高い低いだけで、ストレートに言ってしまうと、病床数の過不足に大きく影響を受

ける。平均在院日数も、病床数が多いために、平均在院日数が長くなっているといった分析も、本来は記載するべきだと思う。次回以降にそういう情報を記載していただくことは難しいことか。

事務局）　本庁地域医療課で医療分析事業をしている。そうした事業の中で、データとして作ることは可能ではないかと思う。実際に記載するかどうかについては、その際に検討させていただければと思う。よろしくお願いする。

安部委員）　19 ページに、がんの検診の数値目標が書かれている。死因の第 1 位が「がん」というお話があり、受診率の向上を取り組むということで、目標が掲げられているわけだが、この数字を見ると、胃が 3.8、死亡率の高い肺がんが 5.8、乳がんが 12.5 だが、この 3.8 というのは、全国平均的なものであるのか。胆振は極めて低いということか。

事務局）　資料の 16 ページに、がん検診の実施状況として、胃がん、肺がん、大腸がん、子宮頸がん、乳がん別に、西胆振、全道、全国の比較を、令和 4 年度の実績を載せている。

安部委員）　私も拝見したが、結局、がん検診を受けない、遅くなる、症状が出てから病院に行くという、こういう流れが死亡率の高い理由ではないかと思う。受診率を高めるための具体的な取組は、それぞれの市町村、病院ごと、様々あるのかもしれない。会議の主体が取り組むべきことではないかもしれないが、単純に受診率の向上を目指すというだけでいいのかなと思う。現状値が 3.8%に対して目標値 60%、国が目指している 60%を記載していると思うが、現状にそぐわず、希望として記載しているというふうに見えかねない。どのように取組を進めていくのかということを、考えさせられる数字だと思うので、がん検診を深める、広げていくという取組が本当に必要だとは思う。具体的な取組を考える時期ではないのかということを、ご意見として申し上げた。

事務局）　現状値と目標値であるが、現状値は国民健康保険の加入者ベースでの数値となっており、目標値は国民健康保険以外も含む全体の数値ということで記載している。二次医療圏ごとの国民健康保険以外の検診受診率が把握できないため、国民健康保険の数値を記載しており、現状値と目標値に差が生じて見えている。しかしながら、「がん」は死因の第一位であるので色々な普及活動や、事業に取り組んでいきたいと考えている。よろしくお願いする。

村下会長）　この全体のデータは、全部のデータはないのか。国民健康保険加入者だけのデータなのか。そこを確認したい。がんの数値目標以外、在院日数とかの色々なデータはどうなのか。

事務局）　現状値については、国民健康保険加入者で数値を記載している。その他のデータについては、母集団となる数字は国民健康保険の部分であったり、純粋に調査の積み上げであったりという数値で整理をしている。

村下会長）　そこが非常にわかりづらいと思う。室蘭市はがんの検診率が低いというが、実際は社会保険組合などを含めると高い。データの母集団の根拠を示さないと、誤解を招くことになりかねないので、わかるように記載いただきたい。

事務局）　今回の推進方針で把握できるものは記載をして、誤解を招かないようにしたいと思う。よろしくお願いする。

（2）室蘭市内３病院の統合・再編等について

ア　青山委員（室蘭市長）から資料に基づき説明

・資料 3　室蘭市内 3 病院の統合・再編等について

イ　特記事項：無

ウ　質疑応答：無